

## 1 学力検査結果の概要

表1 総点の得点分布

得点	685人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	17	2.5
80～89	79	11.5
70～79	160	23.4
60～69	168	24.5
50～59	134	19.6
40～49	85	12.4
30～39	32	4.7
20～29	7	1.0
10～19	3	0.4
1～9	0	0.0
0	0	0.0
平均点	63.5	

表2 小問別正答率(%)

大問	小問	正答率
一	問一	99.3
	問二	45.1
	問三	72.4
	問四	70.5
	問五	32.6
	問六	47.9
小計		58.6
二	問一	78.5
	問二	86.0
		69.3
	問三	42.5
	問四	58.6
小計		61.2

大問	小問	正答率
三	問一	65.8
	問二	73.7
	問三	76.9
	問四	60.1
	問五	20.1
	問六	71.7
小計		63.2
四	問一	94.3
		58.4
		85.8
		66.6
		75.3
		62.3
		67.7
		83.5
		77.0
		74.4
小計		74.4

## 2 分析結果の概要

### (1) 大問別正答率の推移

大問	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
一 文学的文章	65.1	83.5	67.5	75.9	58.6
二 説明的文章	78.3	71.5	64.4	50.1	61.2
三 融合	50.0	60.0	57.0	56.5	63.2
四 読み書き・書写	(86.3)	(80.4)	(83.4)	65.1	74.4
全体	64.8	71.9	63.0	59.4	63.5

( 四は、それまで各大問中で問われていた、読み書き・書写問題を、平成15年度から一つにまとめて設けられた。平成12年度から平成14年度の四の欄は、各大問中にある読み書き・書写問題の平均点である。 )

### (2) 正答率の高い問題(四を除く)

正答率	問題番号	問題内容
99.3	一の問一	文脈に即して副詞を補充する問題
86.0	二の問二	論の展開を踏まえて、該当する内容を含む文を文章中から見つけ、指摘する問題
78.5	三の問一	文脈に即して接続詞を補充する問題

### (3) 正答率の低い問題(四を除く)

正答率	問題番号	問題内容
20.1	三の問五	推敲の仕方を答える問題
32.6	一の問五	文章の表現から書き手のものの見方や考え方を推察する問題
42.5	二の問三	論の展開に即して、抜き出された文の位置を指摘する問題

### (4) 平均点、度数分布、正答率からみた傾向

平均点は、昨年度と比べ4.1点上がった。大問別の正答率では、四が最も高く、一が最も低い。昨年度と比べて二、三、四の正答率が上がった。昨年度から読み書き・書写問題として独立した四の正答率は9.3ポイント上がり、記述式の問題が増えた一の正答率は17.3ポイント下がっている。

小問別において正答率が高かったのは、文脈に即して適語を選択肢の中から補充する問題と、直前にある指示語の内容を指摘する問題である。正答率が低かったのは、平素から書くことの学習にしっかりと位置付けて習慣化を図っておかねばならない問題、語句の一般的な意味を踏まえながら文脈の中での働きを具体的にとらえなければならない問題、文章の論旨の展開を正確にとらえなければならない問題であった。

3 小問ごとの内容，ねらい( は，主たる領域・言語事項。 は副次的領域・言語事項。)

分野	大問	小問	内容，ねらい	設問方法			領域・言語事項				備考
				符号 選択	抜出	記述	話すこと 聞くこと	書く こと	読む こと	言語 事項	
文学 的 文 章 (小 説)	㊦	一	文脈に即して適語を補充できる。(副詞)								
		二	登場人物の行動やその場の様子から事象の理由を推察できる。								
		三	文章の表現からその場の様子を推察できる。								
		四	登場人物の行動やその場の様子から人物の心情を推察し，該当する語を挿入できる。								
		五	文章の表現から書き手のものの見方や考え方を推察できる。								
		六	登場人物の行動やその場の様子から人物の心情を推察できる。								
説 明 的 文 章	㊦	一	文脈に即して適語を補充できる。(接続詞)								
		二	論の展開を踏まえて，該当する内容を含む文を文章中から見つけ，指摘できる。								
		三	論の展開に即して，抜き出された文の位置を指摘できる。								
		四	論の展開を踏まえて，内容をとらえ，ある文が表している内容を指摘できる。								
		五	論の展開を踏まえて，文章の要旨を選択肢の中から指摘できる。								
融    合	㊦	一	古典の文章の内容に即して，適切な言葉を補充できる。								
		二	短歌の表現の仕方や特徴に注意して読み，適切な内容を選択肢の中から指摘できる。								
		三	文章の流れに即して，適切な慣用句を選択肢の中から指摘できる。								
		四	単語の働きについて理解し，適切な助詞を指摘できる。								
		五	推敲の仕方が分かる。								
		六	必要な情報を整理し，構成を工夫して，読みやすく分かりやすい文章を書くことができる。								
読 み 書 き ・ 書 写	㊦	一	教育漢字を正しく書くことができ，常用漢字を正しく読むことができる。								
		二	行書で書かれた字を識別し，その総画数を指摘できる。								

基礎的・基本的事項の設問には，備考欄に が付してある。

□

標準解答

問一	ウ
問二	(例)ヒグマの赤ん坊の声をよく聞くため。
問三	母グマは背
問四	エ
問五	(例)今は書獃として殺すのに、数が激減すると保護するようになる
問六	(例)子グマのしあわせのために手放すと決めたものの、かわいい子グマとの別れは、やはりつらいという気持ち。

考察

動物に対する著者の慈愛に満ちた言動が魅力の素材を通して、文学的文章の読解力をみる問題である。具体的には、叙述に即して、表現の意味や登場人物の心情、内容を的確に理解する力をみる問題である。

文脈に即して副詞を補充する問一、文章の表現からその場の様子を推察する問三、登場人物の行動やその場の様子から人物の心情を推察し、該当する語を挿入する問四は、正答率が高かった。しかし、登場人物の行動やその場の様子から事象の理由を推察できるかどうかを問うた問二、文章の表現から書き手のものの見方や考え方を推察する問五、登場人物の行動やその場の様子から人物の心情を推察してまとめなければならぬ問六の正答率が低かった。問二で目立ったのは、「よく」に当たる言葉を書いていない、不十分な解答である。「自分の血の流れの音にわざわざいされて」などの表現を正確に読み取れていないと考えられる。問五では、「今の状況にしか触れていないものが多かった。これは、「恥知らず」の文脈での意味が十分に押さえられていないことが原因と思われる。また、問六では、養子に出そうとした点にだけ触れて、「涙がいつばいたまっていた」問見谷さんの気持ちまでは書ききれないものが目立った。複雑な心情を十分には推察できていないためと思われる。

そこで指導に当たっては、次の二つに留意する必要がある。

- ・ キーワードに線を引かせながら、文章の展開に即して前後の文脈を丹念に読みこなし、細かな情景や心情を読み取る中で、全体的な状況を把握できるようにすること。

・ 情景や心情を表す語句の意味や働きを、文脈の中で具体的にとらえさせるとともに、その語句の用い方がどのような効果を生んでいるかについて、文例をいくつかあげて違いに目を向けさせるようにすること。

また、読書に親しむ態度を育てることも大切である。

□

標準解答

問一	イ
問二	分析的な理解のしかた(ヨーロッパ的な考え方) (はじめに)まずものを全体としてとらえ、必要に応じて細部を押さえていくというやり方
問三	7
問四	ア
問五	エ

考察

素材の魅力は、

- ・ 文章の前半部で、ものを知る三つの方法である「分ける」「つかむ」「さとる」について比較しながら分かりやすく述べられている点

- ・ 後半部で、前半部の「分ける」「つかむ」の概念を活用しながら、現代日本の種々の矛盾を克服するには、発想の転換を図ることが必要であることを述べている点

である。この素材を通して、説明的文章の読解力をみる。具体的には、論の展開に即して、内容を正確に読み取り、全体の要旨をとらえる力をみる問題である。

文脈に即して接続詞を補充する問一、論の展開を踏まえ、該当する内容を含む文を文章中から見つけて指摘する問二は、正答率が高かった。しかし、論の展開に即して、抜き出された文の位置を指摘する問三、論の展開を踏まえて内容をとらえ、ある文が表している内容を指摘する問四、論の展開を踏まえて、文章の要旨を指摘する問五の正答率が低かった。問三では、挿入文が分析的な研究方法のプラス面を述べていることをまず把握することが大切である。その上で文章の展開を押さえていけば、「だが」という逆接の接続詞の前後がねじれていることを見つけることができると考えられる。問四が低かったのは、選択肢後半の「環境の破壊」という語句に影響されて、前半の「紙の原料となる木を伐採することに目が向けられ」は、文中では全く言及されていないことを把握できていないためと考えられる。問五では、「ヨーロッパ的な理解の仕方」分析的、「東洋（日本）の考え方」総合的」という筆者の考え方の中心が、十分にはとらえられていない。

そこで指導に当たっては、次の三つに留意する必要がある。

- ・ 平素の授業の中で、筆者のものの見方、考え方をとらえる上でキーワードの発見がポイントであることを意識させること。
- ・ 各段落の文脈の中での働き（並立・順接・逆接・対比・説明・転換など）を、各段落の要旨をまとめて段落ごとの小見出しを付けさせたり、段落末の一文の文意を押さえさせたりすることを通して、具体的にとらえさせること。
- ・ 文章を読解する上で必要となる抽象的概念などを表す基本的な語句について、具体例を取り上げて理解を深めさせること。

三

標準解答

問一	例)独りよがりの考えになる	
問二	イ	
問三	ウ	
問四	人たちを	人たちが
問五	例)言いたいこと(伝えたいこと)が十分に	
問六	<p>(例) 中学二年生のとき同じクラスになった文子さんは、友達に対する思いやりのある人だ。</p> <p>私は、合唱コンクールの責任者の一人になったけれども、計画通りに練習を進めることができなくて、投げ出したくなった。そのような私を見て、文子さんは励ましの言葉をかけ続けてくれた。そのおかげで、合唱コンクールでは金賞をとることができた。</p> <p>私は、人が悩んでいるときに、相手を思いやることの大切さを、文子さんから学んだ。</p>	

考察

卒業文集に載せる文章を作成する中学生の構想から推敲までの過程を通して、内容を正確に読み取る力、文章を効果的に活用する力、言語感覚などの基礎的な力をみる問題である。

単語の働きについて理解し、適切な助詞を指摘する問四、推敲の仕方を答える問五の正答率が低かった。問四では、助詞についての理解不足が正答率に影響したと考えられる。問五では、推敲の基本的事項を押さえていない解答が目立った。

そこで、指導に当たっては、日常的に使う言葉の正しい使い方を日ごろから意識させることや、目的意識をもたせながら書く練習をさせることなどに留意する必要がある。

四

標準解答

問一	まんきつ	たずさ	まぎ	えんかつ	警備	討議	規模	故障
問二	ア							

考察

問一のと の正答率が低かった。では送りがなにつながるように無理に合わせた誤答が多く、では「討」が書けていないものが多かった。漢字の指導においては文脈の中に位置付けて指導することが大切であり、その中で、文字の成り立ちや語源などに興味・関心をもたせる指導を行う必要がある。